

エッセイ

『わづらびの逢い』

加藤 導男

私は五木ひろしのファンです。

彼の昭和六十年の曲『そして：めぐり逢い』は好きな曲の一つです。この曲は演歌調ではなく、若い二人が数年振りに逢い、これから幸せに歩んでいくという青春賛歌で、一番の最後の歌詞「ひと春 ふた春 そして：めぐり逢い」が私の気に入っているフレーズです。

当会は創立して三十七年目です。

現在、会員数は百七十名程になつていますが、初めて入会される方は紹介者以外は初めて「めぐり逢う」わけで、創立後これまで入会され、その後、退会や亡くなられた会員の数の数は判然としませんが、入会された方は何百名にもなると思います。

ここで、今年・昨年亡くなられた四名の会員の方についても当会でめぐり逢った人達です。

☆針靖人副会長は、三月二十六日

に亡くなられました。享年七十五歳で、当方と生まれ月も一緒でした。追悼文は別稿に、当会に入会の紹介をされた渡会裕一顧問が書かれています。針さんには平成二十三年より事務局長をお願いしました。

針さんは積極的で尚且つ真面目で、人望もあり、当会発展の原動力として、大変貢献された方です。そしてハンサムで、昨年亡くなつた私の家内もフアンの一人でした。

二年前に癌で先生より余命を宣告されましたが、昨年の一泊旅行や秋の歴史散歩にも参加され、今年の二月の例会にも出席されるなど、お元気であつたので、大変シヨックであります。ご冥福をお祈りいたします。

☆川尻悦三さんは、一月十三日に亡くなられました。享年九十四歳でした。八十歳台迄、ワープロでレジュメを作成し、研究発表をされ、質問時間も含め、五分前には必ず終了していました。元海軍に所属しておられたためだったのでしょうか。

その後、沢山の所蔵本を当会にご寄贈頂きました。ご葬儀等が終

わつてから、ご長男より訃報を頂戴したので、弔問に参上できず、木村会長名でお悔やみのお手紙を送つて頂きました。

☆石関貞治相談役は昨年、九月十九日に亡くなられ、享年八十三歳でした。前号で菅原啓一郎相談役が追悼文を書かれています。石関さんは会の発展に大変寄与された方で、例会でも、研究発表者側の立場に立つて、質問されたり、お褒めの言葉を述べ、融和ムードの醸成することに腐心されておりました。

また、会として重要な課題が発生すると、石関さん、菅原さん、丹下重明相談役からご助言を頂き、無事に解決したこともありました。

☆間淵二三夫さんは昨年二月二十八日亡くなられ、享年八十一歳でした。喪主のご長女との連絡が取れないため、弔問が出来ず、大変心残りであります。

「古事記」「日本書紀」に精通され、例会での古代史についての質問は説法するどく発表者を困らせることも度々。二次会でも喧々

止めることもありました。

ここ数年は奥様の看病等もあり柔和そのものとなり、入会浅い会員の方々には、昔の面影を感じないと思つています。古代史の好きな会員には貴重な存在でした。

当会の大町初代会長、八城第二代会長、湯川・谷山副会長、小林勇常任理事の皆さんは鬼籍に入られています。この皆さんから多方面にわたりご教示頂き、その申し伝えや伝統等によつて、現在の当会の活況を呈している大本があると思つています。

私事で恐縮ですが、家内が昨年八月、他界いたしました。

家内とは銀行での職場結婚ですが、私が本店から池袋のある支店に転勤となり、同じ課に彼女がおり、間もなく他の支店に転勤となりました。後で聞いたところ、その支店の雰囲気は馴染めず一年足らずで退職したのです。

ところが、私の支店で人練りが足らず、彼女が再度、正規採用で同じ課に配属になり、私が見初めで、ゴールインとなりました。その支店は雰囲気は良く八組のカッ

ブルが誕生し、今でも、当時の上司を囲んで毎年、会を開催しています。幹事長が私で、家内が幹事でした…。

冒頭申し上げた『そして…巡り

逢い』の曲はカラオケでは、当分の間は歌えないと思います。

家内を想い出してしまふので。

(完)

.....